

えりもしゃくなげ



発行者 教育長 川上松美 (代)01466-2-2525

えりも中学校の体育大会は、集団的美しさ（行進）やスタートに当たっての呼名と挨拶が、実に立派でした。指導が見えます。

○今年も各学校で特色ある運動会や体育大会が行われました。

○体育的行事は、日頃の体育にかかわる成果の発表の場です。

○徒競走は代表的な競技ですが、玉入れや綱引きなど、体力や運動能力を発揮する機会です。

○ある学校では、竹馬や一輪車など全学年で取り組んだ成果を発表していました。

○行進も集団的演技として、美しさやチームとしての結束を培う力の育成でもあります。



『地域学校への支援』 周辺環境に「自治会」や「老人会」が 心を込めた花壇整備

あけぼの自治会の皆さんの支援



新浜老人クラブの皆さんの花壇整備



校門前の花壇は、毎年、あけぼの自治会の皆さんが整備をしています。えりも中、えりも高校も含めた学園通り、心のオアシスとなっています。

スポーツ公園は町民の憩いの広場です。入口に咲いているきれいな花が町民の心を癒してくれます。毎年、新浜老人クラブが整備しています。

意識を変えましょう。学校への支援

○運動会などで、保護者だけでなく、地域一体で役割を決めて主体的に、運営者として支援していることは、「子どもは地域の宝」「えりもの子はえりもで育てる」という理念に合った学校への支援です。

○えりも中学校で記録係として支援するPTAの皆さんも同様です。



登下校に危険だということで、保護者の方がトラクターで笛舞小前の国道歩道の草刈りをしてれています。本来は、国道ですから開発局が整備するところですが、児童の安全第一に立った「地域学校」の実現です。

笛舞小の『続・凡事徹底』の証
 笛小では『立腰』が、学年が進むにつれて立派です。立腰が立派だと学習への集中力も付いてきて学力も育ちます。先生方の組織的で継続した取組として、『続・凡事徹底』がしっかりと見えます。

○6月26日、笛舞小学校に教育局木野村義務教育指導監が学校訪問したときの様子です。

○1・2年もしっかり坐り、1・2年生よりは3・4年、3・4年より5・6年と、立腰が立派。○このことは何を物語るか。それは、先生方が組織的に、さらに継続して取り組んでいる証拠で、まさにチーム力と言えます。各学校も一丸となって進めることが求められます。

○立腰は「背筋を伸ばし、正しい姿勢」であることです。また、立腰は、しっかり人の話を聴くことに結び付きます。

○行儀が悪く坐って聞いている状態では、決して落ち着いた態度で学習しているとは言えないでしょう。

○学校と家庭に求められることは、次のような点です。

- ①教師の側に立腰をしっかり定着させようとする意識が薄いと育ちづらいこと
- ②低学年から指導を継続していかないと、小学校高学年、中学生、高校生では、指導に対して従わず反抗的な態度を取る児童生徒も出てくること
- ③よいところを誉める意識をもって指導に当たる姿勢が一層あると育ちの度合いが大きいこと



6年生



5年生



3年生



4年生



2年生



1年生

粘り強い指導で育みます

学年が進むにつれて 立腰が立派 がんばる笛舞小の児童たち
 組織で継続して取り組んでいる証あり

町内の学校では、小学校において先生が意識して指導に当たっています。時には意識が薄く注意などをせず授業を進めているケースも見られるので、機会あるごとに徹底を図ることが大切です。また、家庭においても、しっかりと親としての役割を果たし、食卓のときや家庭学習での姿勢を意識させ、習慣が身に付くよう、学校と連携して子供を育てましょう。その他にも、例えば、靴をそろえることやあいさつすることも同様です。